

令和8年度 学校自己評価システムシート （学校法人狭山ヶ丘学園 狭山ヶ丘高等学校）

目指す学校像	不易流行の精神を基盤に、“挑戦する学びの文化”を再興し、 学力・生活・進路の三位一体で公立高校を凌駕する飛躍を実現する。
--------	---

重 点 目 標	1 志望達成率の飛躍的向上 2 教科学習の質的最適化と学力基盤の強固な形成 3 高校生活・部活動の充実（主体的参加による学習意欲の向上） 4 基本的生活習慣の確立と学習基盤の強化
---------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	**名
	生徒	*名
	事務局（教職員）	*名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価（ 月 日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・本校生徒は素直で勤勉であり朝ゼミ・放課後ゼミなどの学習機会を活用して努力を重ねている。しかし、国公立・難関私大を志向する層がいる一方、最上位大学への挑戦意識はやや弱まりつつある。 ・進路意識を高め、高い目標に挑む文化を再び強めることが喫緊の課題である。	・学習継続力 ・進路実現へのこだわり ・補習・講習への参加状況 ・スタディサブリ活用状況 ・模擬試験・実力テスト推移 ・最上位大学志望率	・進路ガイダンスの高度化と、Google Classroomを活用した迅速な情報共有により、進路への意識を高める。 ・朝／放課後ゼミ・補習・講習を継続し、学習ペースを維持させることで戦意欲を喚起。 ・教員の指導体制を効率化し、生徒への各種支援をより手厚くする。	・上位大学志望者数の増加 ・模試成績の向上者数 ・志望校確定の早期化 ・ゼミ参加率の向上 ・入試方式別合格実績 ・志望校の早期確定と継続的取り組みによる合格者数の増加度合			
2	・「思考力・判断力・表現力」は伸びているが、特に表現力に個人差が大きい。 ・理解度把握の精度向上と、主体的に学びへ向かう姿勢の強化が必要である。 ・協働的対話の質にも差があり相互に学び合う環境づくりが課題となっている。	・授業改善の実施状況 ・スタディサブリやAI教材の活用度 ・基礎学力の定着度 ・思考力・表現力の伸長度	・不易流行の精神を基盤に、伝統的な学びの素晴らしさを残しつつ、新時代にふさわしい学習環境へ転換する。 ・スタディサブリやAI教材を活用した個別最適化学習と教員の愛情あふれる指導力を融合し、基礎学力・思考力・表現力を鍛える授業を構築する。	・自学自習の自発性向上 ・小テスト・レポート等の実質的な成果の確認 ・学習環境の積極的活用度（特別自習室等を継続利用し、学習習慣が定着したか）			
3	・生徒は素直で優しく仲間思いだが、主体的に挑戦する姿勢が十分に育っていない。 ・部活動は一定の成果を上げているものの、独自の実績をさらに積み上げる余地がある。 ・あわせて、学校生活全体の満足度向上が求められている。	・部活動加入率 ・学校生活満足度 ・行事参加率 ・主体性・協働性の伸長度 ・大会実績の向上	・部活動・行事・委員会活動への主体的な参加を促し、常に挑戦する文化を育てる。 ・教員は愛情ある導き手として生徒の挑戦を支え、成功体験を積ませることで学習意欲を高める。 ・部活動環境と指導体制を整え「公立には出せない実績」を継続的に生み出す。	・部活動実績の向上 ・学校生活アンケートの結果 ・行事満足度 ・主体性・協働性の成長指標 ・学校生活への主体的参加の広がりが学習意欲向上に結びついているか。			
4	・生活指導と学習指導を一体化し、規律ある生活習慣と継続的な家庭学習を定着させる。 ・教員は生徒の努力を支え、個別最適化された学習支援で確実に伸びる環境を整え、生活と学習の両面から成長を促す学校文化を築く。	・爽やかな挨拶の定着 ・適切な行動・校則遵守 ・交通ルール遵守 ・安全な自転車利用（ヘルメットの着用などを含む）	・全教職員が日常的に生活指導を行い、少ない校則を確実に守らせる。 ・事前指導を徹底し、交通マナーや地域への配慮を促す。 ・常に担任や学年団が温かく見守り、安定した学校生活を支える。	・校内での挨拶の定着 ・校則違反者の減少 ・感謝を基盤とした人間的成長の深化（周囲への敬意や感謝を行動に表し、より成熟した学校生活を送れているか）			

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等

